

ルーマニア月報

2018年9月号



平成30年10月12日
在ルーマニア大使館作成

Embassy of Japan in Romania
<http://www.ro.emb-japan.go.jp>

本月報はルーマニアの報道をもとに、日本大使館がとりまとめたものです。

(AG:アジェルプレス通信, ZF:ズィアルル・フィナンチアル紙, NO:ナインオクロック紙)

主要ニュース

【内政】●大規模抗議集会への対応ぶり等を巡りフィレア市長がドラグネアPSD（社会民主党）党首を批判し、両者の緊張が高まった。その後、ドラグネア党首の辞任を要求するスタネスク副首相等党幹部の書簡を受けCEX（全国執行委員会）が開催され、投票の結果、ドラグネア党首に対する党内の圧倒的多数の信任が確認された。

●多数の被害者から刑事告発がなされている8月10日の大規模抗議集会につき、事実関係究明のためのヒアリング等が行われた。

【外政】●ルーマニアにおいて、ルーマニア、ポーランド及びトルコの三カ国外相会合が開催された。

●ルーマニアにおいて、第3回三海域イニシアティブ首脳会合が開催された。

【経済】●ルーマニアの2018年第2四半期のGDPは2017年第2四半期から+4.1%（季節調整前）、+4.2%（季節調整後）増加した。2018年上半期のGDP前年同期比+4.0%（季節調整前）、+4.2%（季節調整後）増加した。

●8月末のルーマニアの財政収支は約145億5,940万レイ、対GDP比で1.54%の赤字であった。

【二国間関係】●石井駐ルーマニア大使は、離任挨拶のために、ヨハニス大統領等と面会した。

内政

■フィレア・ブカレスト市長とドラグネアPSD党首の対立

・4日、ママイアにおいてPSD（社会民主党）のCEX（全国執行委員会）が開催され、この中で、フィレア・ブカレスト市長は、8月10日の大規模抗議集会の混乱の責任をクリセル・ブカレスト知事に押しつけようとしている、またカルメン・ダン内務相が知事のSNSのやりとりを盗聴している等と批判し、同内相の辞任を要求した。投票の結果、内務相の解任に賛成した者はフィレア市長のみだった。またフィレア市長は、同市長とドラグネア党首との間に緊張関係があることを認めた。

・PSDのCEXは、現在代行職が擱かれている、ブ

カレストを含む11のPSD支部の支部長選挙を行うことを決定した。

・ドラグネアPSD党首は、2019年の大統領選挙に立候補せず、PSDはALDE（自由民主主義同盟）との共通候補擁立を希望する旨表明した。フィレア・ブカレスト市長は、自分自身は大統領候補に立候補しないとしつつ、ALDEとの共通候補についてはCEX内部に賛同は多くないと述べた。

・4日、フィレア・ブカレスト市長は出演したテレビ番組の中で、ドラグネア党首はPSDにダメージを与えていることを理由に辞任すべきだと述べた。

・5日、フィレア市長は、ドラグネア党首がブカレスト市の予算を大幅に削減して市長の活動を阻止しようとしたり、スパイのように行動を監視したりしていると述べた。

・6日、PSD所属のブカレスト市議会議員がフィレア市長を支持する書簡に署名をした。また、トゥドセ元首相も、フィレア市長を支持すると述べた。

■ドラグネア党首に対するPSD内部からの辞任要求

・19日、ドラグネア党首の党首即時辞任、及び下院議長の辞任を求めるPSD幹部による書簡が公開された。書簡は、ドラグネア党首と党幹部（CEXメンバー）に宛てられたもので、「イニシアティブ委員会」として、スタネスク副首相、フィレア・ブカレスト市長、ツツイアヌ上院副議長（元防衛相）が署名している。

・21日、CEXが開催され、スタネスク副首相等から辞任が要求されていたドラグネア党首の信任投票が行われた。ドラグネア党首の発表によれば、68名のメンバーのうち、55名がドラグネア党首を信任し、反対したのは8名、棄権は1名であった。CEXは党首、副党首等幹部党员、地方支部長、議会委員会の委員長等のメンバーで構成される。19日にCEX実施が決定されて以来、ドラグネア党首等は精力的に地方支部の幹部等と連絡を取り合い、支持者に大臣や次官ポスト、欧州議会議員リストへの掲載、県への優先的予算配分等を約束したとされる。CEX終了後、ドラグネア党首は会見を行い、10月6日及び7日に予定されている憲法上の家族の定義を巡る国民投票の後に、再度CEXを開催し、内閣改造及び、現在代行職で運営されている党支部の支部長の選挙日程について決定すると述べた。

■政府予算の修正を巡る対立

・4日、ヨハニス大統領は、国防最高評議会（CSAT）を開催したが、政府提案の修正予算案のうち国家安全保障分野の予算が削減されていることを理由として、新たな予算案を要求し、CSATを中断した。

・5日、ダンチラ内閣はCSATの承認がないまま修正予算案を承認した。これを受けてヨハニス大統領はダンチラ首相に大統領府への出頭を要請したが、ダンチラ首相はスペイン訪問を理由に出席しなかった。6日、ダンチラ首相の代理としてテオドロヴィッチ財務

相、トアデル法務相が大統領府を訪れたが、大統領は面会を拒否した。

■8月10日大規模抗議集会を巡る動き

・4日、フィレア・ブカレスト市長は8月10日に起きた大規模抗議集会における暴力事件について検事総局のヒアリングに出席した。フィレア市長は、ジャンダルメリア（治安警備隊）による暴力を巡りクリセル・ブカレスト知事がスケープゴートにされようとしているが、カルメン・ダン内務相がジャンダルメリアの暴力を企画していたと批判した。同日にはダン内務相及びクリセル・ブカレスト知事のヒアリングが上院国防委員会で予定されていたが、ヒアリングは議会側によりキャンセルされた。

・9日、ドラグネアPSD党首は、出演したテレビ番組の中で、8月10日の大規模抗議集会は外国から資金支援されていた証拠をつかんでいると述べた。これを受けて11日、PSDは大規模抗議集会に対する外国からの支援についての調査を公的機関に要請すると発表した。

・20日、ジャンダルメリアの3人の高官が8月10日の大規模集会における職権濫用の罪で刑事訴追された。抗議集会で被害を被った人からの刑事告発の件数は770件に上る。

・21日、検察は、8月10日の抗議集会でカザン・ジャンダルメリア局長による広場からの排除命令が、違法であるとして、カザン少佐等を刑事訴追した。

・25日、ダン内務相は、上院防衛委員会のヒアリングに出席し、抗議集会におけるジャンダルメリアの介入は合法だったと主張した。また、規則上ジャンダルメリアの介入に署名をすることになったクリセル・ブカレスト知事もヒアリングを受けた。

■憲法上の家族の定義を巡る国民投票の実施の決定

・11日、議会において、憲法上の家族の定義を「男性と女性間の合意による結婚」により形成されるものと修正する市民イニシアティブが議会の3分の2以上の賛成により採択された。USR（ルーマニア救出同盟）は、国民投票は恩赦法等の問題から国民の目をそらすものだと反対した。憲法の修正をめぐる国民投票が10月7日に行われる予定。

・18日、政府は家族の定義を巡る憲法の修正をする

ための国民投票を10月6日及び7日に実施することを発表した。国民投票の質問は「あなたは議会が採択した憲法の修正に賛成ですか?」というもの。政府はこのために約3540万ユーロの予算を組んでいる。ダンチラ首相は、憲法の修正は「セクシャルマイノリティに対抗するものではない」と述べた。

■国家汚職対策局 (DNA) の新首席検事選考

・6日、トアデル法務大臣は解任されたキョヴェシDNA首席検事(長官)の後任として、6人の立候補者を面接した後、アディナ・フロレア・コンスタンツァ地方高等検察局検察官を推薦した。DNAは、フロレア候補の名前が訴追案件ではないもののDNAの調査案件の対象に含まれているとしており、これを問題視する報道が見られる。

■司法改革：司法関連法案

・25日、憲法裁判所はヨハニス大統領から提出されていた司法関連法律第303号修正案(裁判官の身分に関する法律)に対する違憲の訴えを退けた。また、法律第317号(司法最高評議会に関する法律)の修正についての大統領の違憲の訴えは先日退けられており、これにより、これらの法律は大統領により発布される見込み。

■教育大臣の辞任

・27日、ヴァレンティン・ポパ教育大臣がドラグネア党首との面会後に辞任した。UDMRは、少数系民族の学校におけるルーマニア語教育はルーマニア人教師により実施されるべきという緊急政令の修正を求めており、UDMR(ハンガリー人民民主同盟)はこの問題を巡り政権与党との協力を一時停止するとしていた。ポパ教育大臣は、メディアの質問に対し、UDMRの要求に応えることができないので辞任したと述べた。

■EUの対ルーマニア批判

・4日、エッティンガー欧州委員(予算担当)は、ブリュッセルで「欧州の一部が欧州を弱めよう、あるいは破壊しようとしている、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、イタリア政府だ」と述べた。これに対し、メレシュカーヌ外相は、自らのFacebookで同委員の発言は「欧州委員の建設的な態度と相容れないもの」と

コメントした。

■その他

・3日、野党やALDEの関係者の一部は、ダリウス・ヴルコフ首相補佐官(元財務大臣、ドラグネア党首の経済政策ブレーンで、汚職で懲役8年の有罪判決を受けている)が、自らのFacebookに、反政府抗議活動を行う「#Rezist」グループのリーダーの一人の精神疾患歴が分かる書類や、反政府運動とドイツ人民主義フォーラム(大統領の出身母体政党)をナチズムの組織とするメッセージの入ったビデオクリップを掲載したことを強く批判した。少数民族政党グループはダンチラ首相に書簡を送り、首相顧問の即時辞任を要求している。5日、ドイツ大使館はFacebook上でドイツ系をはじめとした少数民族への差別を批難するコメントを発表した。

■外政

■主な要人往来

・4日、ビルチャル副首相は、ルーマニアを訪問したハラフォフ・アゼルバイジャン外務副大臣と会談を行った。

・6日、ダンチラ首相は、スペインを訪問し、フェリペ6世国王、サンチェス・スペイン首相とそれぞれ会談を行った。

・11日、ルーマニアを訪問したペレグリニ・スロバキア首相は、ヨハニス大統領及びダンチラ首相と個別に会談を行った。

・11日、メレシュカーヌ外相は、チャプトヴィチ・ポーランド外相及びチャブシュオール・トルコ外相と共に安全保障に関する三カ国外相会合を開催した。ポーランド及びトルコの両外相は、ヨハニス大統領、ダンチラ首相ともそれぞれ会談を行った。

・11日、カシス・スイス外相は、ルーマニアを訪問し、メレシュカーヌ外相及びダンチラ首相と個別に会談した。

・12日、ルッテ・オランダ首相は、ルーマニアを訪問し、ヨハニス大統領及びダンチラ首相とそれぞれ会談を行った。(下記【EU関係】参照)

- ・17-18日、ルーマニアにおいて、3回目となる三海域イニシアティブ首脳会合が開催された。（下記【EU関係】参照）
- ・17日、沈躍羅中華全国夫人連合会主席は、ルーマニアを訪問し、ドラグネア下院議長及びダンチラ首相と個別に会談を行った。
- ・19日、ナイドゥ・インド副大統領はルーマニアを訪問し、ヨハニス大統領、メレシュカーヌ外相等と会談を行った。
- ・19-20日、ヨハニス大統領は、ザルツブルクで開催された非公式欧州理事会に出席した。
- ・24-28日、ヨハニス大統領は、第73回国連総会に出席した。
- ・25日、オーストリアを訪問したネグレスク欧州問題担当相は、EU議長国の継続性を確保するために、現在議長国であるオーストリアとの協力を密にしていると述べた。

■EU関係

- ・12日、ダンチラ首相は、ルッテ・オランダ首相に対して、ルーマニアがシェンゲン加盟の条件を満たしていると主張した。他方、ルッテ首相は同意せず、また、協力・検証メカニズムも加盟条件に関係するとの見解を示した。
- ・13日、ルーマニア外務省は、2019年5月9日に非公式欧州理事会を開催する予定であると発表した。
- ・17-18日、ブカレストで開催された第3回三海域イニシアティブ首脳会合には、8カ国の大統領（ラデフ・ブルガリア大統領、ドゥダ・ポーランド大統領、グラバル=キタロビッチ・クロアチア大統領、ファン・デア・ベレン・オーストリア大統領、パホル・スロベニア大統領、キスカ・スロバキア大統領、グリボウスカイト・リトアニア大統領、ヨハニス大統領）、ユンカー欧州委員会委員長、ペリー・米エネルギー長官、マース独外相、ヴォンドラチェック・チェコ下院議長、ネストル・エストニア国会議長、リンケービッチ・ラトビア外相、コリナ・クレツ欧州委員等が参加した。出席予定だったアーデル・ハンガリー大統領は搭乗予定の飛行機の不具合により欠席となった。

17日にビジネスフォーラム、18日に首脳会合が開催された。共同声明では、「三海域イニシアティブは、EU内においてメンバー国の経済的な潜在性を高め、より迅速な発展をするという共通の関心のために協調して行動する。経済発展、EUの結束、大西洋地域の絆といった、イニシアティブの基本的な柱、また、EUのメンバーシップに基づく大統領間の非形式的なプラットフォームという、イニシアティブの当初の目的を確認する」ことが発表された。

■国連関係

- ・12日、ブリタ・モロッコ外相は、メレシュカーヌ外相との共同記者発表において、ルーマニアの国連安全保障理事会非常任理事国入りを支持すると述べた。

■イスラエル関係

- ・23日付当地報道によると、駐ルーマニア・パレスチナ大使は、アウレスク大統領補佐官及びメレシュカーヌ外相との会談に関するインタビューの中で、駐イスラエル・ルーマニア大使館のテルアビブからエルサレムへの移転ないという確約を得たことを述べた。

■軍事・安全保障関係

- ・17日付ニュースメディア「ポリティコ」欧州版に、ルーマニア、ポーランド及びリトアニアの三カ国の外相による、英国のEU離脱後の欧州安全保障における同国との関係の重要性についての寄稿が掲載された。

■経済

■マクロ経済

（特に記載のない限り、対前年比又は前年同期比、季節調整後、出典は国家統計局INS）

【7月分統計】

（1）鉱工業

	6月	7月
工業生産高	6.7%	4.0%
工業売上高(名目)	14.9%	16.5%
工業製品物価指数	6.1%	6.0%
新規工業受注高(名目)	17.9%	29.3%

工業生産高が減速。工業売上高(名目)及び新規工業受注高(名目)が加速。

工業売上高(名目)	13.8%	14.2%
新規工業受注高(名目)	18.2%	19.8%

(2) 販売

	6月	7月
小売業売上高 (自動車・バイクを除く)	7.9%	5.0%
自動車・バイク売上高	9.7%	10.1%
小売業売上高 (ユーロスタット)	ユーロ圏 1.2%	ユーロ圏 1.1%
	EU28か国 1.9%	EU28か国 2.0%

小売業売上高(自動車・バイクを除く)が減速。

なお、7月の小売業売上高(ユーロスタット)対前年同月比では、ポーランド(+7.7%)が最も増加し、次いでリトアニア(+7.2%)及びアイルランド(+6.6%)。

(3) その他

建設工事	6月	7月
	2.0%	▲14.9%

建設工事が減速。

(4) 輸出入

	6月	7月
輸出	€58億8,440万 (16.2%)	€59億50万 (12.9%)
	RON273億8,430万 (18.4%)	RON274億6,140万 (14.8%)
輸入	€71億8,660万 (11.7%)	€71億7,320万 (15.4%)
	RON334億4,120万 (13.8%)	RON333億8,330万 (17.4%)

【1月～7月分統計】

(1) 鉱工業

	6月	7月
工業生産高	5.9%	5.5%

(2) 販売

	6月	7月
小売業売上高 (自動車・バイクを除く)	7.5%	7.1%
自動車・バイク売上高	10.8%	10.6%

(3) その他

建設工事	6月	7月
	1.1%	▲1.7%

建設工事が減速。

(4) 輸出入

	6月	7月
輸出	€339億7,690万 (10.0%)	€398億8,780万 (10.4%)
	RON1,580億9,300万 (12.8%)	RON1,855億5,720万 (13.1%)
輸入	€402億8,190万 (9.7%)	€474億5,500万 (10.5%)
	RON1,874億2,570万 (12.5%)	RON2,208億860万 (13.3%)
貿易収支	▲€63億50万	▲€75億7,700万
	RON293億3,270万	▲RON352億5,140万

【8月分統計】

・消費者物価指数

	7月	8月
全体	4.56%	5.06%
食料品価格	3.42%	4.15%
非食料品価格	6.23%	6.78%
サービス価格	2.68%	2.61%
消費者物価指数	ユーロ圏	ユーロ圏

(ユーロスタット)	2.1%	2.0%
	EU28か国	EU28か国
	2.2%	2.1%

8月の消費者物価指数（ユーロスタット）対前年同月比では、デンマーク（0.8%）、アイルランド及びギリシャ（0.9%）が最も低い。

【その他統計】

・7日、ルーマニアの2018年第2四半期のGDPは2017年第2四半期から4.1%（季節調整前）、4.2%（季節調整後）増加した。2018年上半期のGDP前年同期比4.0%（季節調整前）、4.2%（季節調整後）増加した。（INS）

■産業界の動向

・1日、フランス自動車製造者委員会（CCFA）によると、2018年8月におけるフランスでのダチア新規登録台数は11,377台になり、対前年同月比で46.0%増加した。フランスでのダチアのマーケット・シェアは7.56%であり、前年同月の7.25%から0.31ポイント増加した。8月にフランスの自動車市場全体は36.0%増加した。2018年8月末におけるフランスでのダチア新規登録台数は9万8,881台になり、対前年同期比で23.0%増加した。8月末のフランスでのダチアのマーケット・シェアは6.53%であり、前年同期の5.78%から0.75ポイント増加した。8月末にフランスの自動車市場全体は15.1%増加した。

・5日、イギリス自動車製造販売協会（SMMT）によると、2018年8月におけるイギリスでのダチア新規登録台数は811台になり、前年同月の769台と比較して5.46%増加した。2018年8月末におけるイギリスでのダチア新規登録台数は15,794台になり、前年同期の16,616台と比較して-5.45%減少した。2018年8月末のイギリスでのダチアのマーケット・シェアは1.00%であり、前年同期から0.01ポイント減少した。

・7日、ルーマニア運転免許証・自動車登録局（DRPCIV）によると、2018年8月の新車登録台数

は33,680台に達し、対前年同月比で116.86%増加した。

・17日、ルーマニア自動車生産者輸入業者協会（APIA）によると、2018年1～8月の車両販売台数は11万9,093台で、対前年同期比で22.0%増加した。8月末のメーカー別自動車販売は1位がダチア（30,754台、市場シェア：30.6%、対前年同期比で+28.1%）で、次いでVolkswagen（10,468台、市場シェア：10.4%、対前年同期比で+18.8%）、Skoda（8,950台、市場シェア：8.9%、対前年同期比で+23.0%）、Renault（7,463台、市場シェア：7.4%、対前年同期比で+13.7%）、Ford（6,201台、市場シェア：6.2%、対前年同期比で+14.0%）。

・19日、欧州自動車工業会（ACEA）によると、8月におけるヨーロッパでのダチア自動車新規登録台数は4万3,227台となり、対前年同月比で37.1%増加した。8月末におけるヨーロッパでのダチア自動車新規登録台数は36万8,354台となり対前年同期比で+17.1%増加した。

■公共政策

・チャレンジ社は、地震速報装置のルーマニアへの納入、避難訓練の実施等に関し、ルーマニア緊急事態総局との間で覚書を結んだ。

・欧州基金省は、2018年8月31日の時点での欧州基金（20014～2020年）執行率を19.14%と発表。

■財政政策

・28日、公共財務省は、8月末のルーマニアの財政収支は約145億5,940万レイ、対GDP比で1.54%の赤字であったと発表。2017年8月末の財政収支は約65億3,490万レイ、対GDP比で0.78%の赤字であった。

■金融等

・3日、7月末の外貨準備高は310億6,000万ユーロ（7月末の313億7,800万ユーロから減

少), 金準備高は103.7トンで不変。(ルーマニア国立銀行BNR)

・13日, 2018年7月末の経常収支等について次のとおり発表。

(1) 経常収支は48億1,100万ユーロの赤字。なお, 2017年8月末には41億6,200万ユーロの赤字であった。

(2) 外国直接投資(FDI)は, 23億1,400万ユーロ。なお前年7月末には22億7,500万ユーロであった。

(3) 中長期対外債務は, 2017年末から2.4%減少し, 669億5,900万ユーロ(対外債務全体の68.6%)。

(4) 短期対外債務は, 2017年末から23.2%増加して, 306億2,300万ユーロ(対外債務全体の31.4%)。(BNR)

■労働・年金問題等

・3日, 2018年第2四半期の人件費(労働日調整後)は対前期比で9.36%, 対前年同期比で15.60%増加した。(INS)

・12日, 2018年第2四半期の年金受給者数は, 対前期比で1万6千人増加して, 520万7,000人となったと発表。なお, 同期の平均年金額は, 対前期比で不変であり, 1,122レイ(約242ユーロ, 為替レート1ユーロ=4.64レイ)。(INS)

・7日, 2018年7月の平均給与(グロス)は, 4,510レイ(約972ユーロ)で, 対前月比で0.4%減少し, 平均給与(手取り)は2,708レイ(約584ユーロ)で, 対前月比で0.5%減少。なお, 平均給与(手取り)が最も高かった業種は, 業種は, コンピュータープログラミング, コンサルティング及び関連事業分野(ITサービス事業を含めて)で(6,566レイ, 約1,415ユーロ)で, 反対に最も低かったのは宿泊・飲食業(1,575レイ, 約339ユーロ)。(為替レートは1ユーロ=4.64レイ)(INS)

・12日, 2018年第2四半期の年金受給者数は, 対前期比で16,000人減少して, 520万7,000人となったと発表。なお, 同期の平均年金額は,

対前期比不変で, 1,122レイ(約242ユーロ)。(INS)

・24日, 国家雇用庁(ANOFM)は, 2018年8月末の失業率は7月末から0.04%ポイント減少し, 2017年8月から0.72%ポイント減少し, 3.46%となったと発表。

・26日, 2017年の平均月人件費は一人当たり4,008レイ, 約864ユーロであり, 対前年比14.7%増。2017年の平均雇用者数は495万5,900人であり, 前年比18万6,500人増加した。(INS)

・10月1日, 2018年8月末の失業率(季節調整後)は2018年7月末から0.1%ポイント上昇し, 4.3%になった。(INS)

■格付(2018年10月12日付)

Fitch	外貨建長期(国債)	BBB-	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB	(安定的)
S&P	外貨建長期	BBB-	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB-	(安定的)
JCR	外貨建長期	BBB	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB+	(安定的)

(内はアウトルック)

■二国間関係

・13日, 石井駐ルーマニア大使は, 離任挨拶のために, ヨハニス大統領と面会した。同大使より, 1月の安倍総理訪問時の大統領の対応について, 感謝すると共に, 大十字勲章の受章を名誉に思うことを述べた。同大統領より, 安倍総理訪問時に実現した査証免除, その他, 日EU・EPA及びSPAが締結されたこと等への評価が述べられた。

・この他, 石井駐ルーマニア大使は, 離任表敬のため, タリチャーヌ上院議長, オプレア・ビジネス環境・貿易・起業相, ショヴァ運輸省, ネクラエスク外務次官等を表敬した。

・26日, ビルチャル副首相はニューヨークにおいて,

国連総会のマージンで河野外務大臣と会談し、経済協力、安全保障を含む両国の協力関係の拡大について意見交換を行った。また、ビルチャル副首相は、BREXITの文脈で日本企業のルーマニアへの投資、関心の拡大を期待すると述べた。